

# 兵庫県保険医協会第76回評議員会のご案内 (臨時(決算)総会・第32回共済制度委員会)

協会はこの半年、診療報酬改定対策、医療改善や、会員の身近な要求に応える活動など、様々な活動を行ってきました。前半期の活動を振り返り、後半期の活動方針を協議するため、標記の会議を開催致します。お繰り合わせの上ご出席いただくようご案内いたします。

■日時 **11月15日(日)13時**～ / ■会場 **兵庫県保険医協会会議室**  
・13時～ 第76回評議員会  
・14時35分～ 臨時(決算)総会

## 14時55分～ 第32回共済制度委員会 「金融情勢の行方と生保業界の経営戦略(仮)」

三井生命保険株式会社常務執行役員 **鶴岡 重幸氏**

グローバル展開する金融業界をサブプライム問題が奈落の底に突き落とし、1年経った現在もいまだ傷の癒えない状況です。国内生保業界も大和生命を除けば直接の打撃は免れたものの、ほとんどが昨年度末赤字決算となりました。「保険医年金」の幹事会社である三井生命は、この難局にどう立ち向かっていくのか、また、日本最大の私的年金として成長してきた「保険医年金」をどう位置付けていくのか、担当常務に聞きます。会場からも直接ご質問ください。

## 16時～ 特別講演 「消費税は0%にできる」 負担を減らして社会保障を充実させる経済学

日本金融財政研究所所長 **菊池 英博氏**



きくち ひでひろ 1936年生まれ。東京大学卒業、旧東京銀行(三菱東京UFJ銀行)入行。国際投資の企画と推進、銀行経営に従事。ミラノ支店長、豪州東京銀行頭取などを歴任。文京学院大学教授、日本経済財政研究所所長。

サブプライムローンに端を発した金融危機が世界を席卷する中、民主党を中心とする政権が誕生しました。新政権は医師数をOECD平均並にしたり、医療費の総枠もOECD平均並にするという政策を発表しています。しかし、一方で財源をどうするのかという厳しい批判にさらされてもいます。この批判の背景には財政規律の呪縛があります。講師の菊池先生は、財政赤字論について「政府と新聞のマインドコントロールであり、実態とはまったくかけ離れている」と指摘。国会でも参考人として「積極的な減税や投資で景気回復を図るべき」と主張しています。バーナンキFRB議長など、アメリカ金融当局高官とも親交ある国際的エコノミストを講師に迎えての講演会です。是非ともご参加ください。

# 兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

303号

2009年10月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内  
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

## 震災復興住宅での健康教室

# 食べ物で免疫アップ



食材の模型を使ってわかりやすく解説した

震災復興対策として取り組んでいる金楽寺住宅での健康教室を9月16日に開催。今回は野村医院(大物町)管理栄養士の笠井裕美氏が「免疫を高める食事」をテーマに講演し、入居者ら14人が参加した。

講師は、免疫力低下のサインは、風邪やインフルエンザに感染しやすく治りにくい、アレルギー症状が出やすいといったもので、免疫力をつけることにより外から入ってくる敵(ウイルスなど)に打ち勝ち、健康の維持、老化・病気の予防、抗体の生産、がんの予防、感染の防止、異物の識別

が図られるとし、糖質やたんぱく質、ビタミンA・C・E、食物繊維など免疫力を高める栄養素とその代表的な食材について紹介した。

また、たんぱく質は人にとって不可欠な栄養素だが脂質が多いとエネルギーオーバーになり、逆に腸内の悪玉菌を増やして免疫力を下げってしまうなど、食材によって適切な摂取量があることに注意するよう解説した。

## 秋の共済制度普及 好評受付中!

<毎月10日締切> (翌々月1日発足)

●団体定期生命保険●

# グループ保険

昨年度配当は46% 過去15年連続配当!

- 団体保険だから断然安い保険料(35歳男性5000万円保障で5050円)
- 最高5000万円の高額保障 ■配偶者1000万円のセット加入あり
- ライフプランに合わせていつでも増額・減額できます
- 保険金額に関わりなく、面倒な医師による診査はありません

新規・増額  
受付中



お問合せは共済部まで ☎078-393-1805

## 健康情報テレホンサービス

<11月のテーマ>

通話料無料 (0120) 979-451

- 月曜日 アダルトビデオの影
- 火曜日 脳卒中の患者の歯のブラッシング介助の工夫
- 水曜日 ワキガの治療について
- 木曜日 顔面神経麻痺
- 金土日 認知症は予防できるか

※テレホンサービスは、協会ホームページでもご覧いただけます。既放送分も掲載しています。

<http://www.hhk.jp/>



## 県立塚口病院統合再編問題

### 検討委が新病院建設を要望

県立尼崎病院と県立塚口病院の統合再編を議論していた「統合再編検討委員会」が20日、「両病院を再編統合し、新病院を建設するのが望ましい」とする報告書を県に提出した。委員会ではA案＝塚口を廃止し、尼崎病院隣接地に小児・周産期医療の病棟(200～300床)を増築、B案＝塚口を廃止し、新病院(700～800床)を新築、C案＝両病院を存続し、塚口を耐震改修の3案を検討してきたが、医療機能向上の面からB案が望ましいと決定した。報告書では塚口病院の存続を求める地元の声があることも踏まえ、新病院の立地は両病院の患者の利便性に配慮するよう求めている。

また県は新病院に救命救急センターや総合周産期医療センターといった三次医療機能を持たせる地域医療再生計画案をまとめ16日までに国に提出したとされる。

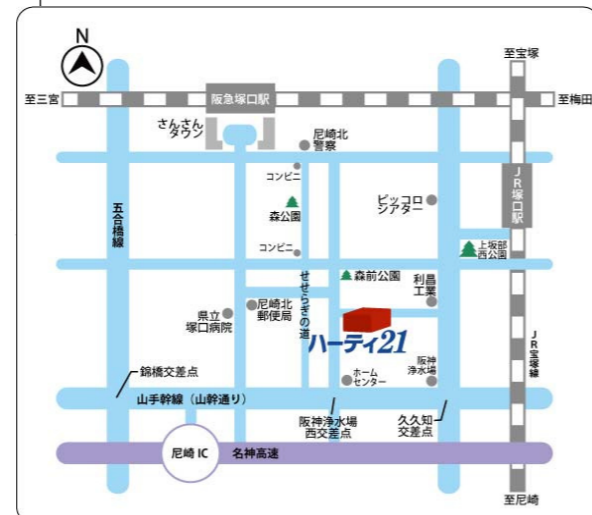
しかしB案は、新病院の場所は未定で、建設費など約220億円に加え用地取得費も見込まれるが、充当するとしていた「地域医療再生支援基金」が民主党政権になり大幅に削減されたため、計画への影響は大きい。



の影響は大きい。

県が昨年8月に出した新行革プラン案で両病院の統合、塚口の廃止を表明して以来、地元で反対運動を粘り強く続けてきた「県立塚口病院の存続と充実を求める会(代表・畠中正昭尼崎支部幹事)」は、新病院建設計画の動きに注視しながら、塚口地域の医療の空白を埋めるためさらなる取り組みを強めるとしている。

同会の第2回総会が25日(日)に開かれる(左記案内参照)。



### 県立塚口病院の存続と充実を求める会 第2回総会のご案内

県立塚口病院の存続と充実を求める会  
代表 畠中正昭  
尼崎市東灘波町4-4-11  
☎080-5710-4754  
Eメール tukabyoudaisuki@ezweb.ne.jp

日頃の当「会」の運営、活動へのご協力に心から感謝申し上げます。  
さて、「尼崎病院と塚口病院の統合再編検討委員会」は、さる9月8日の第4回検討委員会で「統合再編時の診療機能と施設整備(検討案)」として示されたA・B・Cの3案について議論が行い、次の第5回委員会(10月初旬頃、最終回)で議論の「まとめ」を行い知事へ「報告」を提出するものと見られています。

この「報告」を受けて知事が早い時期に県の今後の方針を発表することが予想され、非常に重要な段階を迎えています。

私たちは、これまで「尼崎市及び阪神地域の医療の水準を後退させない」という立場から「塚口病院の存続と充実を求める」運動を進めて来ました。今後も「住民の要望」をしっかり踏まえ、取り組みの方向を住民に提起していくことが求められています。

そこで、現在の県立病院をめぐる情勢と今後の取り組み方針について議論するため、第2回総会を開催致します。誠に多忙な時期ではございますが万障繰り合わせの上、ご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

◎ 県立塚口病院の存続と充実を求める会・第2回総会

日時 10月25日(日)午後6時30分～  
場所 ハーティ21ホール  
報告 統合再編検討委員会の報告と県の方針について

## 尼崎アスベスト訴訟

### クボタと国は責任を認めて謝罪せよ

「大事にしていた会社も土地も生きがいの、いのちまでもすべて失った。なぜ夫がこのような死に方をしなければならなかったのか、裁判でその原因と責任を明らかにしたい」

1960年ごろクボタ旧神崎工場でアスベスト関連の作業に従事し、肺がんで死亡したクボタの下請け運送業者の男性と、尼崎市内で水道管などの石綿製品の粉塵に曝露し、同じく肺がんで死亡した男性の2遺族3人が、同社と国に損害賠償を求めた裁判の第1回口答弁論が10月13日、神戸地裁大法廷で開かれた。ふたりの男性は石綿が原因とする労災認定をうけている。

原告の3人は意見陳述で「肺がんが脳に転移し、毎日が生地獄」「石綿の危険性を知りながら国やクボタはなぜ規制しなかったのか、裁判で原因を追及したい」と涙ながらに訴えた。

弁護団は「加害企業は石綿の危険性を知りながらなぜ使用しつづけたのか、国はその危険性を知りながらなぜ規制しなかったのか、国や加害企業はなぜ責任をとらないのか。今後増大しつづけるであろう石綿被害者が真に救済されるためにも、石綿被害の真相を徹底的に究明し、国と加害企業の責任を求める」と意見陳述。被告側は「当時、石綿曝露と肺がんの因果関係を知ることはできなかった」「追って反論する」として争う姿勢を示した。

尼崎アスベスト裁判は、旧クボタ神崎工場の周辺でアスベストに曝露し中皮腫で死亡し、クボタと国に損害賠償を求め13回の口答弁論を迎える第一次裁判につづく裁判で、二つの裁判は今後並行してすすめられる。

裁判後の報告集会で参加者は遺族を激励。弁護団は「第一次裁判は中皮腫による死亡だが、今回は肺がんが死因で、石綿との因果関係は古くから明らかにされており、知らなかったではすまされない」と指摘し、証拠を集め勝訴をめざそうと呼びかけた。傍聴、支援には50人がかけつけた。次回の口答弁論は2月1日、午前10時半から、同地裁。



裁判所に向かう原告と支援者

### 第429回 幹事会だより

9月25日(金) 於 園田・王府楼

- 尼崎支部の会員数と組織率  
9/24 現在 医科 378人 (82.7%)、歯科 126人 (49.0%)
- 医療をめぐる情勢と運動対策  
総選挙後の情勢、新人議員への働きかけ、県立塚口病院問題等について意見交換した。
- 当面の支部活動  
医療安全管理講習会を10月24日(土)に開催する。
- 次回の幹事会  
10月30日(金)20時から武庫之荘・「桜 武庫之荘」で開催予定。  
会員の先生はどなたでもご参加いただけます。お問い合わせはTEL 078-393-1803 長澤まで。